三咲さんが遺したもの

「三咲さん！」呼びかけに、急に頭を上げ辺りを見まわした。そして静かに息を引き取った。

ささえ合い　はげまし合い

三咲さんが骨肉腫と診断されたのは、山の中の小学校3年生の時。3年生は三咲さん1人。けんかもするけどすぐに仲直り、楽しい家族のような小さな学校。三咲さんは、木登り名人、そして祭りの相撲大会では上級生の男の子を投げとばすほどの力持ち。

ある日、左足の痛みを訴えた。骨肉腫だった。友だちは自分のことのように心配した。なかなか治らず、左足を切断することになった。友だちや先生は何と言って励ましたらいいか言葉が浮かばない。見舞いに来た友だちに、三咲さんは普通に言った。「友だちと会いたい。学校に帰りたい。家族と暮らしたい。だから悪い所はとる」。友だちは、思わず笑顔になった。手術は大成功。三咲さんは、学校に帰ってきた。みんな大喜び。またいつものようににぎやかになった。

三咲さんは、左足がなくなり、松葉杖と車椅子の生活になった。でも、みんなといっしょに何でもしたいと思った。友だちも、今までと同じように三咲さんといっしょにしたいと思った。楽しい秋の運動会。三咲さんは、車椅子で入場行進。右足だけで立って、和太鼓をたたく。しかし、左足を切断した三咲さんは競走することはできない。みんな困った。「知恵を出し合ったら三咲さんもみんなも楽しめる方法が出てくると思うよ」と先生のアドバイス。考えに考えた。「あっそうだ！」車椅子を使った競走をしよう。みんな大賛成。試しにやってみた。これが結構おもしろい。でも車椅子が足りない。役場に相談した。あっちこっち電話して貸してもらった。車椅子の猛練習。車椅子競技は、お客さんにも大うけ、たいへん盛り上がった。運動会は大成功。子どもたちの顔は、満足感、達成感、幸福感に満ちていた。

一回り大きく成長した子どもたちの姿に親も教師も喜びを共有した。

町のミニバスケットボール大会。三咲さんも参加できる新しいルールを考えた。チームは大活躍。三咲さんがゴールを決めるたびに会場から大歓声が上がった。「三咲ちゃーん、ナイス、シュート！」人がつながることは、今生きているということを実感させる。

一本柱鳥居

先生たちには、気がかりなことがあった。六年生になったら長崎修学旅行がある。長崎には、被爆した「片足鳥居」がある。この「片足」という名前はいやだなあ。三咲さんはいやな思いをするだろうな。折角の楽しい修学旅行なのに。他にも同じ気持ちの人がいるのでは。長崎市に名称を変えてもらえないかお願いした。平成10年、「片足鳥居」は「一本柱鳥居」と変更された。長崎市は、人の痛みがわかる町である。人権の町である。

しかし、三咲さん、修学旅行には行けなかった。6年生になった6月19日、ベッドから頭を上げ、ゆっくりと辺りを見まわした三咲さん。頭を下ろすと、静かに息をひきとった。天使のような美しい、いい顔をしていた。

今、「一本柱鳥居」の前を通ると、三咲さんの笑顔といっしょに、平和の尊さと人の優しさを感じる。三咲さんは、前向きに生きる人の強さ、人が支え合うことのすばらしさ、人がつながりあう喜びを、多くの人に感じさせてくれた。

三咲さんは、生きていれば今年21歳。三咲という名前は「三度咲く」と書く。三咲さんが遺した花は、いつも咲いている。三咲さんと暮らした家族、友だち、先生、そして三咲さんを知る多くの人の心の中に。

三咲さんの元気な明るい声が今も聞こえてくる。

益城町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名 326

矢嶋姉妹周辺⑪

この音曲は単なる遊芸や隠し芸ではなく、将来一家の主婦として来客の礼遇に必要な芸事であるとの教育理念からでした。この指導は、役所に迷惑であるからと蔵の中でされたそうです。

矢嶋家は、父忠左衛門が一領一匹へと次第に階級が上がり、惣庄屋となるに従い、人々の出入りも頻繁になり、次第に接待の家事も忙しくなり、それにつれて支出も増加していきますが、家庭の生活は質素倹約・自給自足を旨とし、同時に惣庄屋としての家格を維持していきます。この苦労の中でも子女の教育は厳しく、そして優しく続けられました。

忠左衛門は、湯浦手永惣庄屋当分・中山郷の惣庄屋として栄転していきますが、その間も教育は休みなく続きました。下益城郡中山郷では、治績が大いに挙がり、感謝した地区民の手で矢嶋祭りが始まります（今は取りやめとか）。

家庭内の会話も自治行政が主で、滅私奉公の雰囲気が満ちていたでしょうし、出入りする人々の中には、当時二男で部屋住みの横井小楠も加わっていたそうですから、これらの人々が語る格調高い会話の環境が矢嶋姉妹の人格の基礎を作ったのでしょう。

鶴子の教育の信条の基本になったのは何か、それは我が国の固有な道徳の「武士道と婦道」でした。

韓国に花郎道、西欧に騎士道があるように日本の武士道は、新渡戸稲造の「武士道」の名著により世界に紹介されました。「武士道」は、原文が英語で出版されたので、矢内原忠雄氏や奈良本辰也氏など、日本の学者の見事な翻訳と解説書があります。

この後、少し難しくなりますが、鶴子の教育理念を紹介するには必要なのでお許しください。

益城町文化財を訪ねる会
会長　松野國策

新渡戸稲造著の「武士道」（矢内原忠雄翻訳）